平成 24 年 4 月 13 日　金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC

今週の概要

今週の感染症情報

（調査週）　平成 24 年　　第 14 週　　4 月 2 日（月）～4 月 8 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況　　（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾　患	定点当り	奈良県	北　部	中　部	南　部
1	感染性胃腸炎	5.60	→	→	→	→～↑
2	インフルエンザ	4.49	↓	↓	→～↓	↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.66	→～↓	↓	→～↓	→～↓
3	水痘	0.66	→～↑	→～↑	↑	↓
5	咽頭結膜熱	0.29	↑	→～↑	↑	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況　報告数は226例で、前週報告の282例から減少。上位５疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④A群溶連菌咽頭炎、⑤突発性発疹の順で、前週報告からインフルエンザと感染性胃腸炎の順位が逆転した。水痘の報告数（11例）は、やや増加。感染性胃腸炎の報告数（84例）は、横ばい。A群溶連菌咽頭炎の報告数（10例）は、ほぼ横ばい。突発性発疹の報告数（4例）も、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数（162→107例）は、9週連続で減少。なお、インフルエンザ定点からの報告の内訳は、奈良市HC管内；45例、郡山HC管内；62例だった。郡山HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が1例あったが、奈良市HCおよび郡山HC両管内基幹定点からの報告はなかった。　（村井　記）

県北部外来状況：外来患者数は春休みになり減少している。インフルエンザは３月中は週 20 人前後が続いていたが、4 月になり減少が目立ってきた。感染性胃腸炎は、例年に比べ少ないが、保育園の幼児ではロタウイルス陽性例がよくみられる。軽症例が多い。マイコプラズマ肺炎が疑われる発熱後咳の持続する例がインフルエンザの減少と反比例して増えている。（矢追 記）

県中部地区概況　報告数は、263 例から 255 例とわずか減少した。上位５疾患は、感染性胃腸炎、インフルエンザ、水痘、Ａ群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱の順であった。感染性胃腸炎は、94 例と横ばいであり、インフルエンザは 122 例と減少傾向である。眼科定点からは、桜井保健所より流行性角結膜炎３例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。（高木 記）

県中部外来状況：外来数は普通程度。インフルエンザＢ型が流行、先々週は学童が主であったが次第に幼稚園児に年齢層が下がって来た。症状は軽症、一旦解熱し、登校し再度の発熱で受診し診断する例もある。ロタウイルス陽性例が増加中。ＲＳウイルス様（検査陰性）のぜ―ぜーの例、仮性クループ様の例等の呼吸器症状の乳児もやや多い。マイコプラズマ様の４歳児があった。水痘、流行性耳下腺炎が流行中。手足口病が１例あった。（岡本 記）

県南部地区概況　報告数（第 13 週→第 14 週）は 59 例→44 例と減少。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（28 例→18 例）、①感染性胃腸炎（23 例→18 例）、③RS ウイルス感染症（２例→４例）、④Ａ群溶連菌咽頭炎（３例→３例）、⑤マイコプラズマ肺炎【基幹定点】（０例→１例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況：外来数は多くないが少し増加傾向。インフルエンザがまた少しぶり返して流行している。全てＢ型。症状は普通感冒と区別の付かない軽いものが多い。RS ウイルス感染症が第 14 週で１～３歳児で増加したが、入院を要するものはなかった。感染性胃腸炎はロタウイルスが乳児から学童まで広がっている。嘔吐が主で下痢はあまりなく便色も普通のものも見られる。キャンピロバクターもあり。マイコプラズマと思われる下気道炎例も多い。水痘も流行性耳下腺炎もなかった。（山本 記）

（感染症情報センター 記）